

平成22年度学校経営の方針

市川市立第八中学校

1 学校教育目標

「自主・協力・継続」

2 目指す学校像

「生徒が主役」の学校

- 一人一人の生徒が持てる力を積極的に発揮する明るく楽しい学校
- 一人一人の教職員がやりがいを持って生徒のために力を尽くす学校
- 保護者や地域社会に信頼される、開かれた学校

3 目指す生徒像

- 自ら学び、考え、行動する生徒（自主）
- 協力し、励まし合う生徒（協力）
- ねばり強く努力する生徒（継続）

4 目指す学校実現のための視点

「生徒が主役」の学校 ⇒ 生徒一人ひとりを大切にし、育てる学校

- 心（感性）の教育を重視する。
- 生徒指導の機能を生かした教科経営・学級経営を実践する。
- 「しつけること」「育てること」を強く意識した教育を実践する。

5 本年度の経営重点

1 確かな学力を培う

- 「わかる授業」から一步進めて「一人ひとりの良さを引き出し生かす授業（生徒自身が主役と実感できる授業）」の実現に努める。
 - ⇒ 授業力の向上を図るため、授業研究を年2回（7月・10月）実施する。
 - ⇒ 生徒の実態を的確に把握し、教科経営の状況を評価・改善するため、実力試験を2回（4月・12月）、生徒による授業評価を2回（7月・1月）実施する。
 - ⇒ 少人数指導によるきめ細かな授業を推進する。（数学・英語・保健体育・理科・総合的な学習の時間において実施する）
- 学習力（自ら学ぶ意欲、授業への集中力、家庭学習の習慣）を育成する。
 - ⇒ 授業規律の確立に努める。
 - ⇒ 小学校との連携も含め家庭学習の習慣化を推進する。
 - ⇒ 基礎学力定着のための自主学習を推進する。
- 指導と評価の一体化により学習指導の充実を図る。
- 朝読書や言語活動の充実により語彙を豊かにし、表現力を養う。

2 豊かな心を育む

- 生徒の主体性を尊重した体験活動の推進により、豊かな社会性・人間性を培う。
 - ⇒ 小集団活動（学級・班）の活性化により、生徒一人一人のモラルの向上

とリーダーの育成を図る。

⇒体験活動を核に道徳・特別活動・総合的な学習の時間を連携させた SELF 学習を推進し、自分の生き方についての考えを深めさせる。(キャリア教育)

○豊かな人間関係づくりの基盤となる「挨拶等の礼儀を重んじる態度」と「規範意識」を育む。

⇒学区小学校や保護者とも連携した「挨拶運動」を推進する。

⇒集団生活を円滑に営むためのルールの順守を集会活動や学校行事をはじめ全ての教育活動において重視し、規範意識を涵養する。

○特別支援学級と通常学級の交流を推進し、個性を受容し尊重する人権感覚を培う。

○生徒会活動の活性化を図り、自治意識を育てる。

3 健やかな体を育む

○八中ヘルシープラン(自己目標達成カード)の活用等により、主体的に心身の健康管理を行う姿勢を育てる。

⇒自己目標達成カードによる自己点検及び事後指導を継続する。

⇒バランスのとれた食生活を実現のため、点検活動や講演会を実施する。

○集団行動訓練に積極的に取り組み、集団として整然と安全に行動する力を育てる。

⇒保健体育科の授業及び集会活動に集団行動訓練を積極的に取り入れる。

○健康・安全教育を実施し、危険を予知・予測するための能力を育てる。

⇒生活安全・交通安全指導等のための集会や学級指導、災害安全指導のための訓練を年間計画に位置付け、計画的に実施する。

○生徒の安全を確保するため、環境整備や地域と連携した防犯活動を推進する。

4 保護者や地域の方に信頼される、開かれた学校を実現する

○学区小学校及び高等学校との連携を推進する。

⇒挨拶をはじめとする基本的な生活習慣について、学区内の各学校が協調して指導できる体制づくりを進める。

○学校評価を充実させ、学校運営の改善を図る。

⇒学校診断方式を取り入れ学校関係者評価を実施し、教育の専門家や学校評議員による評価結果を、次年度の学校運営の改善に反映させる。

○学校の取組に関する情報を、ホームページや学校だよりを活用して積極的に発信する。

5 教職員のモラルの向上を図る

○教職員が協働できる環境を整える。

⇒学校経営方針、各教育活動の目的や目標等を具体的かつ明確に示す。

⇒双方向の報告・連絡・相談ができるよう部会等の活性化と情報の共有化を推進する。

○一人一人の職員の特長・能力が生きる組織運営を推進する。

○モラルアップ委員会の活動を推進する。